

尚綱の風

～尚綱のOG訪問～

W I N D O F S H O K E I

Matsuo Michiko

松尾 美智子

女子校のメリットを 存分に生かして 自分自身の発見を

歴史と伝統ある尚綱学園を卒業し、いま輝いている先輩方を紹介する「尚綱の風」。今回は、高校・大学と尚綱学園に学んだ飯塚電機工業株式会社の社長夫人、松尾美智子さんとご主人の松尾修二さんに、お話を伺いました。

学園生活で見つけた一生の友達

―在学中の一番の思い出は？―

私は高校・大学と尚綱学園に在籍しました。高校の時は国公立大学を目指す特進クラスで、3年間ずっと同じ顔ぶれでした。おかげで二生のお友達がたくさん出来て、専業主婦になった今もお付き合いしています。大学は尚綱に進みましたが、同級生の9割がその



高校時代(前列向かって右)

プロフィール
昭和50年9月17日生まれ
平成6年3月、尚綱高等学校卒業、平成10年3月尚綱大学文学部英文学科卒業、卒業後は肥後銀行に入行し、平成16年7月に飯塚電機工業株式会社代表取締役社長、松尾修二氏と結婚。専業主婦となる。2児の母。



まま尚綱に行きましたから、高校時代の延長で、先生方に守られている気がして居心地がよかったですね。大学も尚綱を選んだのは、英文学科(現・文化言語学部)に進めば、二年間アメリカに留学できたからです。これが最大の魅力でしたし、一番の思い出でもあります。しかも、普通は大学を休学して留学し

女性独特の細やかな 感性を仕事にも生かせたら

―ご主人に伺いますが、社員を採用する際、女性に求めることは？―

今は男女の区別があまりなくなってきました。女性でも電気関係の技術を習得して、電気の配線や照明器具の取り付けをやっている方もいらっしゃいます。理系の大学を出る必要はないんですよ。それに、女性は手先が器用ですから、配線も見栄えよく仕上げますし、設計にも向いています。女性独特の感性で、細かな気配りをしてほしいですね。

―今日はありがとうございました。―



大学時代のホームステイ先にて(後列左から2番目)

社会人になって生きた アメリカ留学の体験

―留学中、ホームシックにかかったことは？―

ネブラスカ州のセントメアリー大学で、初めて親元を離れて寮生活を体験し、随分たくましくなってきた(笑)。留学組の39人は、寮の部屋は別々でしたが、講義は一緒でしたので、熊本にいた時とあまり変わらない感覚でしたね。日本食を食べたくなったら、だれかの親御さんが送ってくれた日本食を分け合い、熊本弁でしゃべったりして(笑)。二人もホームシックになった人はいませんでした。部屋は現地の女子学生とシェアでしたので、英語力もかなり身に着いたと思います。

―社会に出てから、その英語力は生かされましたか？―

平成9年に熊本で行われた世界インドポール選手権の時はまだ在学中でしたが、ボランティアでアイスランドチームの通訳をしました。就職してからは、外国のお客さまの応対などを担当させていただきました。

自分らしさを見つけて、 どんな社会にも対応できる 女性になってほしい

―現役の後輩たちに伝えたいメッセージがございましたらお願いします。―

私が就職活動をしていた時期に困ったのは、ディベート(討論)が全くできなかったことでした。女性だからと遠慮しないで、もっとコミュニケーション能力を身に付けてほしいですね。女子校のメリットは、思い切り自分らしさを出せることだと思うんです。もちろん、礼儀作法などもとても大事なことです。しっかり自らを見つけて、自分らしさを発見してもらいたいですね。中学校から大学まで一貫教育をしている女子校は、今や少ないと思います。尚綱の素晴らしい伝統は守りつつ、どんな社会にも対応できる女性に育ててほしいと期待しています。



飯塚電機工業株式会社
昭和25年創立。電気工事をはじめ多岐にわたる事業展開を行い、建設業の枠にとらわれないオリジナルシステムを開発・販売するメーカーとして、業績を伸ばしている。